05 心療内科学講座

主任教授からのメッセージ

心療内科学講座では、身体の症状にとどまらず、その背後にある心の動きや人生の背景にまで目を向け、全人的な医療を実践することを大切にしています。そのような診療においては、医師自身の人生経験――たとえば妊娠、出産、育児といった出来事が、患者さんの苦悩や語りに深く共感し、支えるうえで、大きな力となることがあります。

一方で、家庭や育児に軸足を置くことなく、継続的に研鑽を重ね、着実にキャリアを築いていく生き方もまた、尊く意義深いものです。心療内科の現場には、多様な生き方や価値観を尊重する姿勢が欠かせません。講座としても、それぞれの医師が置かれた状況の中で、最大限に能力を発揮できるよう、柔軟な働き方の支援体制を整えています。

本プログラムでは、出産や育児などで一時的に臨床現場から離れていた女性医師が、安心して復帰し、再び心療内科の現場で力を発揮できるよう、丁寧な支援を行ってまいります。同時に、これからも多様なライフスタイルとキャリアの両立が可能な講座であり続けられるよう、環境整備に努めてまいります。

ぜひ、本プログラムを通じて、皆さまの新たな一歩を後押しできれば幸いです。

○ 診療科の特徴

心療内科学講座は 2000 年に単独講座として開講、本学では比較的若い講座です。心療内科学とは内科系講座の一つであり、内科疾患のうちストレスなどの心理社会的な因子が濃厚に関与する病態を対象に、診療、研究、教育を行います。

また、2011 年から総合診療科、2019 年から緩和ケアセンターと連携しており、総合診療や緩和医療の領域でも心療内科学を実践しています。このようなコンセプトで統合された講座は心療内科の先進国ドイツには存在しますが、世界的にも希少で先進的な構造の講座です。また 2020 年度に痛みの集学的診療を実践する「痛みセンター」が開設され、心療内科もその中心的な診療科として他科との連携を密に取りながら、複雑な慢性疼痛患者の診療に取り組んでいます。

○ 診療科で働く女性医師

・附属病院で 2 名の女性医師が常勤として心療内科外来で勤務しています。
・関連病院で 2 名の女性医師が常勤として勤務しています（神戸赤十字病院心療内科 / 緩和ケアチーム）。
・クリニックで 7 名の女性医師が院長として勤務しています。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

・産休期間終了日の数か月前に、どのような勤務内容・形態で復帰するか相談致します。
・結婚、育児、介護など、さまざまな事情による休職や復職について個別に対応致します。

○ 研修内容

・当講座は多様性を大切にしており、希望するキャリア形成を支援できるように講座全体で柔軟に対応致します。
・勤務内容は、心療内科、総合診療科、緩和ケア医、産業医等幅広く選択できます。
・勤務形態は、外来を中心とした短時間勤務から非常勤勤務、フルタイムの病棟勤務まで、柔軟に対応します。

心療内科		指導下	独立
外来	・検査	1 ～ 6 ヶ月	6 ヶ月以降
	・一般外来	1 ～ 6 ヶ月	2 ヶ月以降
	・科別専門	1 ～ 6 ヶ月	6 ヶ月以降
病棟	・入院患者受け持ち	1 ヶ月	2 ヶ月以降
	・救急対応（日勤）	1 ヶ月	2 ヶ月以降

総合診療科		指導下	独立
外来	・検査	1 ヶ月(2～6ヶ月は様子見て独立)	7 ヶ月以降
	・一般外来	1 ヶ月(2～6ヶ月は様子見て独立)	7 ヶ月以降
緩和ケアセンター	・腹部超音波検査	1 ～ 6 ヶ月	6 ヶ月以降
	・腹水穿刺 / 廃液	1 ～ 2 ヶ月	2 ヶ月以降
	・胸水穿刺 / 廃液	1 ～ 2 ヶ月	2 ヶ月以降
	・PICC ライン留置	1 ～ 2 ヶ月	2 ヶ月以降
	・超音波ガイド下末梢神経ブロック	1 ～ 6 ヶ月	6 ヶ月以降

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

心療内科は、患者さんを「疾患を抱える一人の人」として全人的に捉え、より良い生き方を共に考えていきます。そのため、当講座では医局員一人ひとりの価値観や生き方を尊重する風土があります。実際に、性別を問わず子育て中の医師も多く在籍しており、さまざまなバックグラウンドを持つ者同士が協力しながら診療に携わっています。

当講座では、皆様に合った復帰の仕方を一緒に考えることができます。まずはお気軽にご相談ください。新しいキャリアの道を共に描いていきましょう。

復帰した医師の声

体験談（A 先生）

【略歴】

2006 年、滋賀医科大学卒業。初期研修終了後、関西医科大学心療内科学講座に入局。

後期研修終了後、国保中央病院緩和ケア科に 6 か月間出向。

2011 年 4 月より神戸赤十字病院心療内科へ出向。

2013 年に第 1 子、2017 年に第 2 子を出産。

【勤務状況・業務内容】

フルタイムで勤務。外来診察、他科入院患者のコンサルテーションリエゾン、緩和ケアチーム、転倒・転落防止チームとして活動。また、職員のメンタルケアにも力を入れています。現在は、大学からお声がけいただき、多施設研究にも参加しています。学会では、男女共同参画シンポジウムで発表の機会をいただきました。

【仕事と生活の両立について】

夫の勤務地が自宅から遠いため、子どもの送迎や食事の用意は私が主に担っています。その分、日々の洗濯や週末の子どものサポートなどは夫が担当しています。子どもの急病については、職場でも柔軟に対応していただき、早退や時差出勤で補っています。残念ながら院内に病児保育所がないため、近医小児科の病児保育所を利用しています。

第 1 子、第 2 子ともに、産休・育休（第 1 子：6 か月、第 2 子：2 か月）を取得し、その間は大学から非常勤として先輩、後輩の先生方にお越しいただき、外来業務をサポートしていただきました。大変感謝しています。

【女性医師が心療内科医として働くことの魅力】

心療内科医として、人生のどんな経験も診療に活かすことが出来ると感じています。私自身は家事・育児に注力するより、仕事をしている方が楽しいと思えたので早期に復職しましたが、妊娠・出産を経験できたことは診療するうえで大切な糧になっています。現場を離れることでキャリアを積む歩みは遅くはなりますが、心療内科の先生方は快く相談に乗っ

てくださり、とても有り難く感じています。また、キャリアの重ね方として「緩和ケア医」、「総合診療医」、「産業医」と選択肢に多様性がある点も、魅力のひとつだと思っています。

【女性医師へのメッセージ】

男女共同参画社会とはいえ、妊娠・出産をはじめ、女性医師の負担は大きいのが実情です。子どもが小さいうちは勉強時間の確保が難しく、遠くの学会への参加を躊躇うこともあります。仕事も家庭も中途半端に感じて、落ち込む日々もあります。それでも私は働きたい・学びたいと願い、その思いを家族だけではなく、職場や医局の皆様に支えていただいて今に至ります。その援助に感謝すると同時に、いずれは私も次世代を支える側として現場に立ち続けたいと思っています。一緒に頑張っていきましょう。

● 講座ホームページ　関西医科大学　心療内科学講座　**https://psmkmu.wixsite.com/home**